

飛驒市長賞

飛驒市立古川中学校 三年 三嶋菜々子

みなさんにとってふるさととは何ですか。私は感謝すべき、誇るべきたった一つの場所だと思っています。しかし、小さい頃は自分のふるさと飛驒が嫌いでした。何故嫌いだったかのかを思い出し、考えてみると一つ間違った考え方をしていました。

私は小さい頃、都会にアコガれをもっていました。私の思う都会といえば東京。東京には私が好きなお店も東京スカイツリーのような見上げなければ見えない建物がなんでもある夢のような場所です。だから「それに比べて飛驒はなんにもないな」「東京に引っこしたいわ」など飛驒と東京を比べてしまっていました。そう考えてしまった以降、私は飛驒に住んでいるということはずかしく思っていました。

でも、その考えが変わり始めたのは中学校に入学してからでした。私はバレー部に入部しました。部活で地域の方との関わりが増え、車で親さん方に送り迎えをしてもらったり、アドバイスをくださったりしました。ふと思ったのは親さんや、地域の方、そして自然の下、私は生活できていたんだと思いました。そのときから少しずつ、ふるさとに対し感謝をおぼえていっていました。そしてもう一つ、私は絵を描くことが大好きでたくさん飛驒の絵を描いてきました。その絵をふり返ってみてみると東京にはない、伝統がたえず引き継がれてきた建物がたくさんありました。そのとき、私は自分のふるさと飛驒に誇りを持つことができました。

私は中学に入学してから、ふるさと飛驒についてよく知るようになりました。そればかりにつけに表面だけでは伝わらない自然、地域の方の本当の美しさを知ることができ、感謝の気持ちを持ち、誇りをもつこともできました。ただ見方を考えるだけで新しい一面を知ることができ、考え方が変わりました。私はたった一つのふるさと飛驒のために自分は何ができるかを考え、行動し続けていきます。